

広島別院だより

Vol.29
夏号

真宗大谷派（東本願寺）

広島別院教化委員会 発行

非核非戦法会が勤まる

七月六日、非核非戦法会が勤まりました。

当日は、コロナウィルス対策のため演台にはアクリル板を設置し、座席の間隔を拡げてお勤めをしました。

戦後、七十五年が経過し、被爆体験証言者が年々亡くなっていく中、被爆体験伝承者として活動中の諏訪義円師（浄土真宗本願寺派淨寶寺住職）が「私にとつての伝承」という講題で法話をされました。以下、法話の抄録です。

●突き動かすもの

被爆体験も無い私が原爆について語る資格があるのか。そんな悩みを被爆体験証言者で私の指導者である寺前妙子さんに相談したところ、「被爆者の悲しみは体験した者にしか分からぬ。それで伝えねばならないのでは」と言われた。

寺前さんは十五歳の時、被爆し生死の境をさまよつた。一命は取り留めたものの、顔に大怪我を負ったため、自分を命がけで救った後に亡くなつた恩師を「なぜ助けた」と怨んだこともあつた。しかし、被爆直後に収容された施設で、「お母さん、お母ちゃん」と呼びながら死んでいった同じ年頃の子どもたちの悲しみを思えば、辛くとも体験を語らなければ



講師：諏訪義円師

と決意したそうである。

寺前さんが死んでいった人々に突き動かされたように、被爆体験の無い私も被爆者の想いに突き動かされているように感じる。

●悲しみは消えない

義理の父である前住職は疎開中、原爆により家族を失い原爆孤児となつた。しかし周囲の援助により、大学まで進学することができた。父は孤児の身の上を怨むこともなく、『仏説阿弥陀経』の「俱会一処」の教えを喜び、いのち終われば浄土でまた家族に会えるのが樂しみだと言つていた。

その義父が昨年亡くなり、通夜の晩、棺の前で号泣している老人がいた。話を聞いたところ、疎開先で一緒に孤独に耐えた同じ原爆孤児だった。その老人は「寂しかったんじや」と泣きながら何度も繰り返した。

私は勘違いをしていた。父も同じような寂しさや悲しみを抱えたまま生きてきたのだ。悲しみは決して消えないのである。

●非核非戦II教えに白いきを問う

親鸞聖人は、煩惱具足の身を生きる私たちの行いは、すべて迷いであると教えられた。私たちは時に、平和を願いながら正義の名のもとに邪魔な者を抹殺してしまう。核兵器廃絶は大切なことである。しかし、核兵器を作り、使用するのは人間



真宗大谷派 門首交代のご報告

本年六月三十日をもって、大谷暢顯 真宗大谷派第二十五代門首が退任され、七月一日付をもつて、大谷暢裕 第二十六代門首が就任されましたので、ここにご報告いたします。

尚、大谷暢裕門首は門首就任にあたり、法名を「釋修如」と改めましたので、これにより本山からの授与物は「釋修如」の名をもつて授与されますこと、併せてご報告申し上げます。

また、この度の門首交代における「門首繼承式」は本年十一月二十日（本山報恩講の前日）に執行の予定です。詳しくは別院までお問い合わせください。



大谷暢顯 前門首



大谷暢裕 門首

である。凶器の実体は人間そのものである。私たちは念佛という如來の智慧と慈悲に照らされることで、迷いの身である自己自身を問わねばならない。それが非核非戦の第一歩ではないだろうか。



二葉山の仏舎利塔

広島市の二葉山にある仏舎利塔は昭和四十一年に建立されました。インドのネール首相より贈られた仏舎利、スリランカから贈られた仏舎利、モンゴルより贈られた仏舎利が奉安されています。

仏塔はインドの言葉でストゥーパです。中国では卒塔婆と漢訳されています。英語ではパゴダです。五重塔・三重塔・多宝塔なども仏塔の一種です。

真宗大谷派の門徒は遺骨を東本願寺か大谷祖廟に分骨します。「分骨すると成仏できない」と気にされる方がいますが、決してそんなことはありません。

墓は亡き人を偲ぶ記念碑であつて、亡くなつた人が墓の中にいるわけではありません。浄土に還られた方を偲びつつ、私自身が仏縁に遇う縁となるところです。

墓を建てる日はいつでもかもしれません。お盆、彼岸、年回忌などを気にすることはあります。

お寺のハナ?『お墓』パート



8月29日(土) 真宗基礎講座

-親鸞の生き方にたずねて-
(第3シーズン)

【講 師】 三明智彰 先生 (九州大谷短期大学学長)



【日 程】 毎回 13:30~16:00 【会 費】 500 円

【次 回】 2020/10/3(土)、12/19(土)

〈親鸞聖人のご生涯をたずね、浄土真宗の教えの基礎を学ぶ講座です。〉

9月23日(水) 秋彼岸会



【講 師】 水野 元 先生 (安芸北組 妙蓮寺住職)

【日 程】 14:00~勤行と法話 16:00 終了予定

<彼岸とはさとりの世界。昼と夜の時間が等しくなるお彼岸の時節に、
かたよりのない仏様の教えを聞く法会です。>

毎月5日 定例法話 (ご命日の集い)

【講 師】 県内僧侶(月替わり) 【日 程】 14:00~勤行と法話(15:00 終了予定)

〈広島別院開基 教如上人の御命日 (毎月 5 日) に法話会があります。〉

道場樹
【編集室より】

久しぶりに、別院のデスクに座り、「別院だより」を作成しております。春号を休載したので、久しぶりに皆さんにお届けできることに喜びを感じております。

話は変わり、今年も半年経過しました。あつという間です。あと半年もすれば雪が降る。雪が降るという事は、スキーができる!こんな事を思うのは私だけでしょうか。みなさん体を動かしておら

(G・M)

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い全国的に混乱を招き、当別院に於いても各種事業を中心せざるを得ない状況でした。このことにより、皆さんに行事報告等、お知らせすることができず大変申し訳ございませんでした。これから案内・報告等のお知らせを再開していきます。今後ともよろしくお願ひ致します。

広島別院だより
二〇二〇年春号休載のお詫び

真宗大谷派(東本願寺)
広島別院明信院

〒730-0044 広島市中区宝町 4-16

Tel 082-241-5342(電話・FAX 共通)

東本願寺 広島別院

検索